

何かしなければいけない、でも何をしたいかわからない、そんなときに。

大阪教育大学 齋藤直子

戦争は最大の人権侵害だと言われます。しかし今、世界の状況に心を痛めながらも、どのようにして止めたらいいのか、個人として何をしたらいいのかということに悩んでいる人も多いと思います。直接的にデモに参加することもできますし、微力であってもSNSで発言することもできますが、世界のリーダーであっても戦争を止められないどころか世界のリーダーたちこそが戦争を止めないなか、自分はまったく無力だと感じている人も多いと思います。

一方、私たちの日々も楽ではありません。仕事や家事育児、介護などがあったり、自分や家族の健康の問題があったりして、ただ日々を過ごすだけで精一杯で、社会情勢についてニュースをチェックする暇さえないという人も少なくないでしょう。

なんとなく先行きが不安な中、自然災害の「予言」が心に重くのしかかった人もいたかもしれません。ある現場を訪問したとき、子どもの間でも不安が広がり、学校の教員もどう対応していいか悩んでいたと教えてもらいました。

2010年代前半にヘイト・スピーチの嵐が吹き荒れ、10年代後半には法的な対処もすすみましたが、再びそのような状況が現れてきました。

何かしないといけなく、どうしていいかわからないとか、子どもたちに何を伝えたらいいのかかわからないといった漠然とした焦りを感じている読者もおられるのではないのでしょうか。

そうした世相になんとか抵抗したい、子どもたちに希望を伝えたいということでしょう。か、この5月に次のような本が出版されました。岩波ジュニア新書編集部編『生きるためのブックガイド・未来をつくる64冊』です。思春期のしんどさ、自分の身体をめぐることといった自分に関することから、世界の歴史、資本主義など社会のしくみなど世界のこと、科学の歴史や新種の発見といった自然科学のこと、社会的マイノリティの経験やさまざまな人々の語り、貧困や格差、戦争などについての本が紹介されています。こんなふうに説明をすると「読むと、しんどくなりそう」と思うかもしれませんが、過去の人間の営みを学ぶことで、未来の展望について考えようと希望を与えてくれるような内容です。

今すぐ止めなければならないこともあります。一方、これまでの経緯について学びながら長い時間をかけて対処しなければならないこともあります。何かしなければいけないけど、どうしたらいいかわからないというときに、とっかかりを見つけられるかもしれません。